

厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）
 (総合) 分担研究報告書
 研究課題：プリオント病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究

新潟・群馬・長野におけるプリオント病の発生状況

研究分担者：小野寺理
 研究協力者：春日健作

新潟大学脳研究所・脳神経内科学分野
 新潟大学脳研究所・脳神経内科学分野 遺伝子機能解析学分野

研究要旨

新潟・群馬・長野の3県におけるプリオント病の発生状況を調査し、サーベイランス委員会に報告するとともに、特異な経過等を呈した例は個々に発表・報告を行う。

A. 研究目的

新潟・群馬・長野3県におけるプリオント病の発生状況(人口に対する発症頻度、孤発性・遺伝性・獲得性の割合)が、本邦の他ブロックと比べ特徴があるか、あるいは前年度と比べ変化があるかを確認する。

ことから、引き続き新潟・群馬・長野3県における発生状況を監視する必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

C. 研究結果

令和3年度は新潟・群馬・長野3県において52件のサーベイランス調査を行い、サーベイランス委員会で検討した。

その内訳は孤発性CJD definite 2例、probable 26例、possible 7例、遺伝性CJD definite 1例、probable 6例、possible 1例、プリオント病否定例7例、判定保留 2例であり、dCJDの発生は認めなかった。

D. 考察

令和2～3年度の新潟・群馬・長野3県におけるCJDの発生状況は例年とくらべ、やや多いと考えられた。

E. 結論

プリオント病は感染症の側面をもつ疾患である

